美しい夕映えに輝く潮騒のまち

浦本地区地域づくりプラン

平成 27 年1月　浦本地区振興協議会

保存版

住んでみたくなる浦本
ずっと住んでいたい浦本
子孫に残せる浦本
の「まちづくり」実現のために

年々人口が減る、高齢化が進む、若者が少ない、子供たちが…、別にこの浦本に限らず市内どこでも同じような話題が取りざたされます。加えて浦本は東西３kmに及ぶ海岸線に接し、背後には急峻な山が迫る地勢的なハンディーもあります。でも、この土地に愛着があり、地区民の強い絆がある限り地域の将来像に期待したいものです。

年齢階層別人口と世帯数の推移

(各年４月)	平成 17 年	平成 20 年	平成 23 年	平成 26 年
世帯数	３９３	３８０	３６２	３５８
人口	1,１８６	1,０８９	1,０１０	９４１
65 歳以上	４０５	４１１	３９７	４０９
40～64 歳	４１８	３６５	３５１	３０２
15～39 歳	２５７	２２３	１８３	１７２
0～14 歳	１０６	９０	７９	５８

現状と課題①

人口構成は、約１０年間で世帯数は１０％の減少、人口は２０％の減少になりつつあります。

年齢別には出生数の激減(45%)と学卒(高卒)、子育て世帯の地域外への転出が(35%)です。

高齢者数は、ほとんど変化はありませんが、独居老人と高齢夫婦の世帯が増加していることで地域活動の停滞や支障が懸念されてきました。

義務教育未満の児童数の減少(45%)は適正規模での教育環境の維持が困難になってきました。

現状と課題②

平地が少なく海と山に囲まれた狭あいな地形の中での**国道・鉄道・自転車道**沿いの集落という自然環境は、日常生活が**交通幹線との混在**で安全性の確保が急がれます。

また、かつての地すべり崩落跡という**急傾斜地・土石流危険区域**を集落背後に抱え、一方、**海岸浸食**の進行は高波災害からの居住の安全、交通の確保のため海岸保全施設の整備が必要です。

現状と課題③

浦本地区の**自治組織**はどうあるべきなのか。現在の間脇・中浜・中宿の各区体制で自治活動は、コンパクトに独自性が確保される利点がある一方で、財政事情や人材確保の点では先行きに不安がないとは言い切れません。

コミュニティー活動の中核であり、まとめ役、推進役であるべき**公民館組織の改革**がなされつつあります。特に職員の減少問題をかかえ、自治組織との協力、協働関係の充実がより一層待たれます。

浦本地区振興協議会・組織図

(議決機関)

運営委員会

監　事

(執行機関)

役　員　会
正副会長・幹事・監事

(公民館) **事務局**

(運営母体)

間脇区・中浜区・中宿区
浦本地区公民館

(共助機関)

各種団体

(組織母体)

浦本地区民

設立後２０年以上の歴史を持つ振興協議会も母体が三区の共同体形式のため形骸化していました。平成23年から地域振興の核へ変わりつつあります。

現状と課題④

さいの神(中浜地区)

かつての**伝承事業**や日常生活に溶け込んだ**地域文化**も生活形態の変化と共に廃止、衰退したものが多くあります。

これらは、地域に生きる人々の絆として重要な役割をはたしていましたが、**地域共同体という意識の衰退**とともに思い出の域にはまったものもあります。

有史以来、地域住民がこぞって漁業を生業としてきた**産業形態**も漁業就労者は数人、農業就労者を含めても１０％未満で、勤務形態もまばらな三次産業就労者が半数を超え、**住民挙っての催事は増々困難**になってきました。

1 次産業	9%
2 次産業	42%
3 次産業	49%

現状と課題⑤

平地が極端に少ない地域故に良質な農耕地が限定され、**農道も未整備の状態**でほとんどが傾斜地の田畑。かつての半農半漁、自給自足は生活の糧が勤労所得にとって代わり、**農地は荒廃、遊休農地化**し、周辺の山林も手が回らず**野生動物が徘徊、被害**が頻発するようになりました。

荒廃した遊休農地と放置山林

平成２５年１０月実施、全世帯配布　**区民意向調査**　３２８世帯　回答292世帯(８９%)

調査項目　○家族構成と同居の見込み　○保育園と小学校の統合　○三区・振興協・公民館の在り方と地域自治活動　○地域祭事/交流事業(元旦春秋祭・祇園祭り・さいの神・先人祭等/運動会・盆踊り等の在り方)　○まちづくり活動(里山整備/地域環境整備等)　○社会福祉活動　○住環境整備(道路/海岸整備・災害/安全対策等)　○地区管理施設の維持管理/整備の在り方　○その他(自由な意見記入)

日頃聞けない貴重な「本音のご意見」をたくさん頂戴しました。

地域づくりの目指す姿

地域の将来像の策定に当たっては、**行政と地域住民・自治組織・関係団体:企業などの協働による「まちづくり」**を基本とし、その目指すところは**「自ら、あるいは仲間で地域の人たち一人ひとりが生きがいと暮らしを楽しむ環境づくり」**とします。

まちづくりの推進拠点

まちづくりは、目的・目標を同じくする人たちでの**活動の場づくりを基本**としますが、区民全体の協働による**住みやすく暮らしやすい地域づくりの推進拠点は地区公民館内**に置きます。

自治組織（振興協議会・区）は地区公民館（コミュニティー組織）と連携し、**まちづくりの旗振り、まとめ役**を努めます。

まちづくり応援隊と小学生による植樹作業とみかん狩り

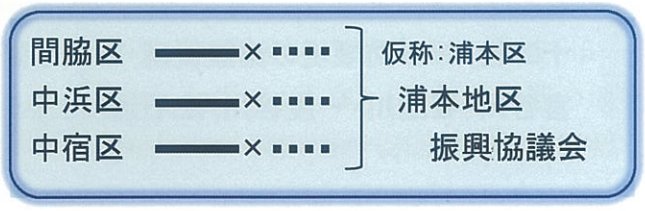
具体的な課題への取り組み

プランの**計画期間は概ね５年から10年**（平成27年～平成36年）を見据えて取り組みますが、課題によっては、特に**国・県・市の事業等については早期実現の要望**となります。

① 自治組織の再編

区民意向調査結果：三区を統合して仮称（浦本区）にすべきか。
賛成２４％　将来の課題５２％

現在の間脇・中浜・中宿の三区体制の中では、役員数、財政事情、事業内容等個々の独自性が尊重される反面、地区全体ではまとまりにくい事項もあります。三区を運営母体とした地域振興協議会は近年、運営・事業費の拠出、事業の統一性を図りつつありますが、所詮は連合体の域に止まっています。将来的には、三区を発展的に解体し、**地区振興協議会に一本化を図るべく検討**すべきかもしれません。



間脇会館

浦本地区公民館（中浜）

中宿会館・ひだまり

② 公民館との協働性の確保

公民館の在り方は基本的には自治組織が関与できるものではありませんが、コミュニティーの活動拠点として今後ますます自治組織との関わりが増してきます。職員の減員課題を抱え、一方では自治組織の改革を踏まえ、双方が協働できる環境を造りだす必要があります。

③ 保育園・小学校の環境整備

区民意向調査結果：保育園の存続、統合は。

存続６２％　統合２７％　：**小学校の統合は。**

賛成１９％　やむを得ない５８％　反対１７％　**保育園、小学校・中学校の園児、児童、生徒の保護者の意向調査結果**

小学校の統合：賛成８０％　どちらでも１０％　反対１０％

浦本保育園(上)浦本小学校(下)

小学校児童数の推移　○数字は学級数

26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
④２８	④３０	③２３	③２２	③２０	③２１

保育園の統合：賛成５３％　どちらでも３３％　反対１４％

創立 140 周年(平成 26 年)を経て小学校の存続が取りざたされるのは寂しさがあります。

現状では児童数の推移は増加には程遠いものがあります。このことは市内の他校でも遠からず直面する課題です。特に児童数の減少は**複式授業という避けられない現実が継続**します。

児童数のみで学校統合は論ずべきでないという意見もありますが、子ども達へ適正規模の教育環境を用意すべきですし、**自然閉校を座して待つのか、「保護者」の判断が**待たれます。願わくは、地区外で生活する家族の帰宅(同居)や「新浦本人」の転入を期待したいところです。

④ 祭事/交流事業の在り方

旧村社「諏訪神社」

賑やかだった祇園祭り

生活様式の変化や趣味の多様化、地域社会の便利性向上などで、かつては待ち望んだ催事も消滅したり、縮小されて限られた人たちで何とか続けられているのが現状です。形式を変え、内容を変えて復活を望む意見もあります。また、大勢の区民参加のため事業の統合で内容を充実して行こうという意見もあります。 逆に、向う三軒両隣りの日ごろの疎通を欠かないよう「隣り組」の絆を深めることも大切です。

統合して充実
整備検討課題例
- ○ 元旦祭
- ○ 春秋の祭り
- ○ さいの神
- ○ 先人祭

形を変えて充実
整備検討課題例
- ○ 秋葉講
- ○ 盆踊り
- ○ 花祭り(灌仏会)
- ○ 祇園祭り

中宿観音堂の年忌法要

新しい交流事業
整備検討課題例
- ○ 収穫祭
- ○ 遊休農地の活用
- ○ あんこう祭り
- ○ 隣り組常会

⑤ まちづくり応援隊の活動

「地域づくりは＝まちづくり」です。「しおかぜ広場」の再整備事業を機会に応援隊を組織しました。現在は広場の整備、維持管理に取り組んでいますが、将来的には地域自治活動のサポート的役割を担って行くことを期待しています。

地域コミュニティー活動を公民館と協働していくには公民館職員、自治組織の役員中心の活動には限界があります。事業の内容によっては『人手』を要するものも出てきます。

また、応援隊独自事業の取り組みを開発して行くのも仲間作りへの輪が広がります。最初は２～３人から…。

「しおかぜ広場」再整備事業

市のまちづくりパワーアップ事業で、「しおかぜ広場」と「中宿つどいの杜」を整備、まちづくり応援隊の皆さんで日常の管理に努めています。

「中宿つどいの杜」整備事業

まちづくり応援隊の規範

みんなはやらない
何でもかんでもやらない
みんながやらない
その時都合のつく者でやる
みんなでやらない
無理やり参加を強制しない

相馬御風 作詞

寄せては返す あら波の
磯につづける 浦本は
沿岸一帯 山を負い
北海一望 能登と佐渡

⑥ 住環境／道路・海岸・災害・安心の対応

「旧・浦本小学校校歌」のとおりの地勢で、海に面し背後は山という東西に長い街並みに平地が少ないなかで、危険渓流が多く、交通幹線が通るという住環境は、安全と安心への整備が必要です。

平成 25 年度浦本小学校 3･4 年生の作品「浦本地区の地勢ジオラマ」

一般国道8号 間脇↔梶屋敷
糸魚川東バイパス早期実現
浦本地区振興協議会

⑥-1 国道の整備要望

東西３kmを貫く国道８号線は県西部の幹線道路であり、地域にあっては「生活道路」です。このため住民の横断中の事故が頻発し、市内でも１、2を争う交通難所です。

国道８号東バイパスの早期実現が待たれます。

安全対策が急務の国道8号線

国道8号　舗装の改善(騒音削減)/信号機の増設/消雪排水の改善/歩道南側街路灯の新設
国道8号東バイパス　早期実現/地域生活道路への乗り入れ接続/除雪基地の設置

沈下と散逸が進む中宿海岸

⑥-2　海岸の保全と整備要望

浦本漁港東西の海岸は浸食が激しく、特に中宿地内は越波による国道８号の交通止めが発生しやすく、住居への浸水被害も発生するため継続的な整備が必要です。

波消しブロックの増強/沈下個所の嵩上げ

⑥-3　市道の整備要望

ＪＲ(えちごトキめき鉄道)南側の市道古御堂線は西側で行き止まり。狭隘、鉄道との高さ不足で進入路が１か所という緊急時の対応が困難な状況にあり、また、市道浦浜線の改良が望まれます。

市道・古御堂線

市道・浦浜線

市道古御堂線/西側への延長・東バイパスとの接続・狭隘箇所の改良　市道浦浜線/見通し不良個所の改善・東側の拡幅延長

⑥-4　治山/治水対策の要望

土石流危険個所や急傾斜地崩落等自然災害警戒区域箇所の整備が急がれます。特に下流で広範囲に住宅が連担する未整備の十二社川土石流危険区域の末流地区での浸水、交通対策や間脇、中浜地区の治山対策等が必要です。

十二社川/砂防堰堤の建設促進・末流地区の排水対策の促進
宮谷川・石動川・一度谷川/土石流による流路の確保

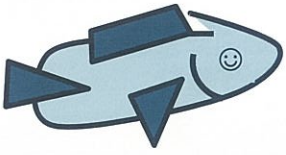
山塊崩落跡の十二社川

⑥-5　避難路/避難所の整備要望

地震・津波対応・災害弱者への対応など、特に避難時には国道・鉄道の横断、急坂の避難を要するため、地域に合った整備が必要です。

海岸寺(避難所)

避難訓練・連絡網の充実/避難路・避難所の整備/救援物資の対応



浦本地区地域づくりプラン策定事業：平成２５・２６年度
／浦本地区振興協議会:運営委員会(１３名)
地域づくり計画策定委員会住環境部会(６名)・交流絆部会(６名)

事業推進のための収支計画

地域振興に向けてより一層活動する協議会として平成23年度から三区の助成金も増額されました。

平成25年度には地域会員(区民)、企業の皆さんから多額の資金援助をいただき、また糸魚川市からは「地域づくり…」「まちづくり…」の制度助成も受け事業活動が大幅に拡大しました。

長野県生坂村で、地域づくりの先進地事例を研修

まちづくりに取り組む社長さんの講義を拝聴

地域づくり計画の策定では委員会を立ち上げ、まちづくり事業では「まちづくり応援隊」を結成し活動を行っています。この他、各地の研修会で協議会運営委員と共に勉強した成果が、この「地域づくりプラン」です。

住みよい地域づくりの基本は　「新たな事業を興すのも方法ですが、**先ずは地域でみんなが今困っていることを取り除く**」ことから始めます。

5か年間の収支計画(見通し)

(注)各年度には前年度の繰越金等は含みません。

収入の部　　単位：千円

項目(費目)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計
三区負担金	655	655	655	700	700	3,365
寄付金/その他	50	50	50	50	50	250
計	705	705	705	750	750	3,615

支出の部　　単位：千円

項目(費目)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計
管理運営費	295	295	295	300	300	1,485
地域活動助成金	160	160	160	160	160	800
地域づくり事業費	120	120	120	140	140	640
まちづくり事業費	130	130	130	150	150	690
計	705	705	705	750	750	3,615

高速自動車道も北陸新幹線もトンネルで通過。地域にとって環境破壊がなくてよかったのかどうか？

開発という荒波にさらされず、少しづつ変わる街並みが良い方に向かえば区民にとって最高の幸せかも知れません。

明解な答えはありませんが、緩やかであっても地域環境が整備されて来れば元気が湧いてきます。

地域でできることは地域で、区民の協働でできることはみんなで頑張れば変わります。

城山から浦本漁港を望む/いつもこのように穏やかな日和を……

浦本村の誕生と先人たち

人が住み着いた年代は明らかではありませんが、縄文時代の中宿藤塚遺跡、中浜遺跡がありますので集落があったと推定されますが、その頃の集落は狩猟・採集生活で異動・消滅は当然ですので痕跡程度かもしれません。

明治以前から続いた自然村(行政権限を待たない)としての間脇村・中浜村・中宿村はその地の利からして正に漁村でした。

縄文集落(想像図)

明治35年の最盛期には漁業従事者466人:人口の２２%、子供と高齢者を除く生産年齢で推測すれば７０%超、漁業関連の商工業を含めれば約９０%の世帯が漁業で生計を立てていたことになります。昭和30年代から激減の一途を経て平成14年には従事者28人、現在では６人、隔世の間があり、既に漁村とは言えなくなりました。

自然村から「行政村(行政権限を持つ)」へ明治５年に移行後、「明治の大合併(明治２２年)」で「浦本村」が誕生しました。旧３村が一体となっての「浦本」の名称の由来は定かではありませんが『浦・浜』=海に沿った海岸にある集落(漁村・港町)を指す用語に由来したか、鬼舞港の脇(浦)を支えた地域だからでしょうか。

現存の資料から足跡をたどりますと村の歴史は地震、地崩れ、火山噴火、津波、風水害や火災による全村焼失など災害の繰り返しと言っても過言ではありません。

浦本漁港と集落

あらた浜・藤塚

そうした中を不死鳥の如くその度ごとに地域を甦らせたのは、村人たちの活力、絆はもちろんですが村人を束ね指導、指揮に当たった人たちの労苦、功績があったからと推察されます。

火災に弱かった板葺屋根や茅葺、わら葺屋根の集落

信仰で心を支えた豊後(大分県)の僧亀秀(海岸寺建立)、大和から行脚し千手観世音菩薩(現在中宿観音堂に安置)を残した僧行基、禅雄寺を建立した不動山城主山本寺定長公。**将**来の人材育成に貢献した医師杉原孝寿(小学校の最初の先生：中宿観音堂脇に顕彰碑あり)、初期の校舎に自宅を提供した富浦千足宮司、医師で村長として長年務めた小林清之進、学校林を寄贈した猪又治助、二宮尊徳銅像を寄贈した大西実、**産**業を支えた寒ざし場争いに一身を捧げた久保田権次郎、川合喜衛門：それぞれに感謝の顕彰碑あり。この他、度重なる**戦**争での戦没者、犠牲者…等々の先人の遺徳を忍び感謝を忘れてはなりません。

5月の第2日曜日は先人感謝の日です。

余談

糸魚川は糸井川だった

糸魚川に何故糸魚川が無いのですか

古代に朝鮮半島新羅からの渡来人で養蚕機織りの技術を持った**糸井一族**が兵庫県にいました。そこには「**糸井川**」という川があります。後に大和朝廷から「造:みやつこ」の姓(かばね：身分)を賜り、新田開発のため上刈地区を中心に400年間住んでいました。当時の「ぬなかわ」は「**糸井一族が住んでいるところにある川**」ということで「糸井川」と呼ばれました。戦国時代になり一族はいなくなりましたが、「**いとよ**」が遡上する川として「**糸魚川**」**と書く**ようになり、やがて暴れ川をしずめようと「**姫川**」**に改名**され、糸魚川はなくなりましたが「**地名**」として今日に残されました。岐阜県中津川市を中心に当地から移住した人々が「**糸井川**」「**糸魚川**」**姓を名乗って**住んでいます。大和川は「**大和直**(やまとのあたい)」が住んでいて今の**海川は**「**大和川**」でしたので地名として残りました。青海は「**青海首**(おうみのおびと)」が住んでいて**地名と川に青海**がついています。